

●前田邦弘

22日(水)

9時から役場会議室にて出納監査。その後、議長室で三宅会の打ち合わせ。

23日(木)

午前中、先日の村長との話し合いの件で数人の漁師と打ち合わせ。

24日(金)

最近、若郷下水処理施設が臭いが出ると聞き、現状視察。

25日(土)

親戚に不幸があり、手伝い。

26日(日)

昨日に同じ。

27日(月)

午前中、議長と議長室で打ち合わせ。

28日(火)

午前中、議会運営委員会に出席。



議長の目^{アイ}ランド



2011年から3月11日に発生した東日本大震災で福島第1原子力発電所の事故から6年が過ぎたが、原発の近隣地域においては帰宅困難な所が未だに相当数ある。又、「避難解除されても元の場所に帰るのか」とのアンケートでは、「帰る」と答えた人は60歳以上の高齢者が殆どで、若い人たちは子供の将来の事や、避難先で生活基盤が出来ている等の理由で帰らない、帰りたくないという意見が多かったと報道していました。

今まで日々平穏な生活を営んでいたのが一変して、永年住み慣れた我が家を後に避難しなければならない状況になった時の胸中は、いかばかりか計り知れない気持ちになります。

日本には54基の原発があるそうだが、万が一九州地方や西日本で同じように原発事故が起きたらと思うとゾッとする。

人間が作る者で絶対安心安全だという物は無いと思う。何故なら一旦自然が牙を剥けば為す術がないからです。過去に世界でも大きな原発事故が起きている。

1979年 アメリカのスリーマイル島原発事故 レベル5

1986年 旧ソビエト連邦のチェルノブイリ原発事故 レベル7

この他にも小さな事故から中程度の事故は枚挙にいとまがないほど起きている。

国際原子力機関が定める事象評価尺度では次のようになっている。

レベル1～3 異常事象

レベル4～7 事故

レベル4 事業所外への大きなリスクを伴わない事故

レベル5 事業所外へのリスクを伴う事故

レベル6 大事故

レベル7 深刻な事故

福島では未だに原子炉内部の詳細は分かっていない。廃炉処理は今後何年後か何十年後か解らない。

便利の裏には大きなリスクが隠れている事を今一度認識しながら、日常生活で普段何気なく使っている電気、ガス、水道、通信等のライフラインについて一寸足を止めてありがたさを考えてみたらどうだろう？

因みに、当村では自然エネルギーを利用した太陽光発電と風力発電の実証実験が始まった。無公害の電力を安定供給できるように期待したい。

議長 戸田邦市

公共施設再見

第3回 新島村温泉ロッジ (中)

今号は温泉ロッジ内のレストランを取り上げる。ご承知の方々も多いと思うが、ここは宿泊施設とは別経営になっている。村から個人への貸付である。厳密に言うと、行政上の目的を持った公共施設であるので、契約ではなく、使用許可となる。施設を使いたい人が使用の申請書を提出してそれを許可するという体裁をとる。現状は1年ごとの使用となっていて、期限が来る前に新たに申請して許可をもらい、結果として継続して営業を続けることになる。

月額5万円の使用料が高いか、安いかは、にわかに即断できない。中の設備や什器類はとりあえず整えられているが、実際には使用に耐えられない物品も多く、食器類はほとんど自前だと言う。また一定の条件が課せられていて宿泊客に朝夕食を供



外は雨のためまだ暗い。静かな朝食。